



業種
専門サービス業

導入部署・部門
資格制度委員会
/ 施工管理技術者試験部会委員

導入前の課題

- ・ 400 名～ 500 名を会場に集めて試験
- ・ 採点は、委員 8 人～ 9 人で 3 日掛かり。肉体的にも大きな負担に
- ・ 厳格性が高く、「試験の監視」や「試験問題の管理」も大変

導入後の成果

- ・ 自宅でも受験が可能になり、運営のストレスも減少
- ・ 採点は、委員 3 人で半日以下まで短縮。業務効率は大幅に向上
- ・ 監督員がリアルタイムで監視するため、「厳格性」も確保

試験運営に IBT を導入し、業務負担もストレスも半減！「もう元には戻れません」

一般社団法人 日本免震構造協会様では、300名程の委員が委員会活動を行っています。委員会活動は多岐にわたり、資格制度委員会もその中の一つです。

資格制度委員会は、20年前より『免震部建築施工管理技術者』という資格試験を実施していました。この資格は、1級建築士か1級施工管理技師という国家資格を持っていないと受けられないものの、受験者数は毎年400名から500名の間で推移。多いときで550名ぐらいほどになったと言います。

資格試験は全国の受験者が東京・渋谷の試験会場に集まり、講習を受けた後に引き続き試験を行う、というやり方をしていました。渋谷で500名以上を集められる会場はそんなに多くないうえ、あってもコストがかなり高くなっていました。さらに、会場設営の準備、当日の受験者のコントロールも大変だったと言います。

なかでも、一番大変だったのは『採点』だったようです。

採点は、「試験が終わった後に8人～9人の委員で、3日を掛けて採点をしていた」とのことでした。「採点して家に帰ってベッドに入ったら、“めまい”がしていたぐらいですよ」と、苦笑いを浮かべながら振り返っていただきました。



一般社団法人 日本免震構造協会
資格制度委員会 / 施工管理技術者試験部会委員長
館野 様

コロナ禍がやってくると、“試験会場に受験者を集める”ということができなくなり、必然的に「業務変革」や「デジタル化」を余儀なくされることになりました。

そんななか、事務局のスタッフが「なにか良い方法はないか」とリサーチをしているなかで見つけたのが、パーソルビジネスプロセスデザインの提供するIBTでした。特にポイントとなったのは、「監督員がリアルタイムに受験者を監視する」という『厳格性』の部分だったようです。パーソルビジネスプロセスデザインのサービスについて興味を持っていた点について、館野様は次のようにコメントくださいました。

「実績がないと私たちも採用できないので、それなりの人数規模で実施されていたのは大きかったです。あと、他社とも比較もしましたが、他社は全部『AIでやっている』ということでした。しかし、本人確認や監視については、やはり『直接、人間が見てやる』というのが泥臭いですが確実に良かったんですよ」

そうして正式にご依頼をいただくことになりましたが、実装する際にはいくつかが苦労もありました。ひとつは“試験問題の表示”です。今回の『免震部建築施工管理技術者』の試験では、それぞれ試験問題に意図を持たせて作っており、紙の状態であれば受験者が試験の意図を把握して答えやすくなっていました。しかし、それがPC画面上になった場合に「その意図が伝わるのか」を懸念されていたのです。

「ディスプレイ上で表示された時にどうなのか、というのはすごく気にしましたね。『画面の構成はこうならないか』『こうすることはできないか』ってし

つこいぐらいお願いしました」と館野様。

運用1年目ではなかなか解決できなかったところもありましたが、2年目になるとほぼ解決できました。そのくらい、時間をかけて進めていったのです。こうした対応について館野様は、「この辺りの作り込みをパートナー企業さんとしてやってもらえるかどうか、というのは大きいですね。『これ以上はできません』と言われてしまうと、我々も仕事がしにくいので」と評価してくださいました。

IBTを導入して2年が経過すると、格段に変化が出てきたようです。『8人～9人の委員で、3日をかけていた』という採点作業については、「今は3人で、半日以下で終わらせることができています。これは業務効率として大きいですね」と続けます。

そして、試験前に行っていた「講習」については、日本免震構造協会様が動画を制作して『動画受講』という形式に切り替えました。ユーザーの利便性は上がり、運営側としても業務効率が上がる。館野様はそういったメリットを列挙しながら、「悪いところがないですね。デメリットはゼロではないですけども、あっても小さいものですから、トータルで考えたら悪いところが全くない」と断言されました。

「会場での試験実施は、もうやることはないのでしょうか？」と館野様に質問してみると、「もう元には戻れませんよ。嫌です。もしどこかの偉い人が『会場でやりなさい』と言ったら、私は降りますね(笑)それくらい、この免震の資格についてはIBTが合っている」と語気を強めながら口にされました。

